泉南市の地勢及び沿革

地勢

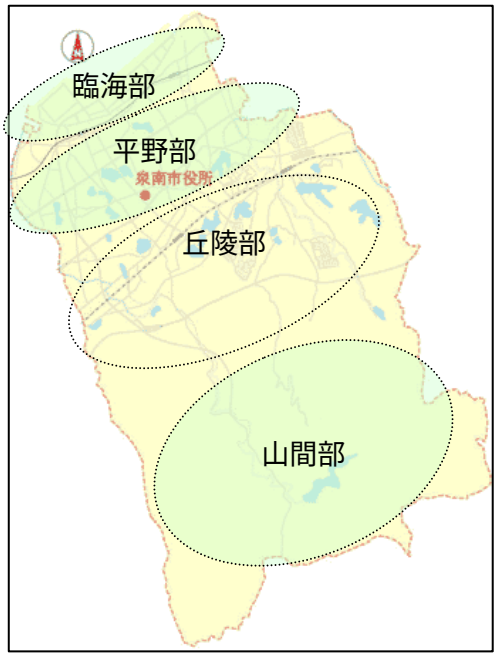
本市は、大阪府南部に位置し、大阪都心部から 40～50㎞ 圏内にあり、公共交通機関を利用すると大阪都心部から 1 時間以内、関西国際空港へは 20 分以内で到達できます。

市域の北西は大阪湾に面し、南東は和泉山脈を境に和歌山県と接しています。北東は樫井川を境界として田尻町・泉佐野市と、南西は男里川を境として阪南市に隣接しています。

市域は南北約 11㎞、東西約 8㎞ の広ぼうをみせ、市域の面積は 48.48 平方キロメートル、人口約 66,000 人のまちです。なお、関西国際空港の南部約 3 分の 1 を市域に含んでいます。

気候は瀬戸内気候に属し、年平均で 15℃程度、年間雨量 1000～1200㎜ と比較的温暖な環境にあり、植生はほとんどが二次林で、コナラ林、アカマツ林、竹林などで占められています。

地形



市域の地形は、大きく山地、丘陵部、および平地部に分けられます。

市の南縁を区切る和泉山脈から連なる山地部には低い山が多く、最も高いボンデン山で標高 468m です。

山地に続く丘陵部には、JR 阪和線が走り、ゴルフ場や住宅団地が造成され、ため池が多くあります。JR 阪和線の海側には歴史的古道である熊野街道が市域を横断しています。

丘陵部より大阪湾にいたる標高 10～30m の平地は、ほとんどが宅地や農地として利用され、標高 10m 未満の河川河口部や海岸沿いは南海本線と紀州街道が並走しています。また、市の東西には樫井川・男里川が流れ、男里川上流の金熊寺川沿いには、旧根来街道が通じています。樫井川河口部には岡田漁港があり、男里川河口には大阪府内唯一の天然干潟が形成されており、野鳥や海の生物など貴重な生物の生息地となっています。

沿革

市域に点在する遺跡や石器・土器などの出土品にから、本市の歴史は古く、縄文・弥生の時代まで遡り、文化的にも地方の主要な村落であったことがうかがえます。白鳳から天平年間には多くの寺院が建立され、律令制社会が没落すると、信達荘などの荘園制が発達しました。鎌倉時代には、熊野詣が流行し、街道筋は宿駅として栄えました。そして、徳川時代には岸和田藩に属し、和泉木綿の産地となり紋羽織の生産で有名になりました。また明治時代には、軍服用材料として需要が増大し、紡績工場が相次いで設立されるなど、現在に至る産地の形成がなされました。しかし紡績業につきましては、構造不況業種ともいわれ、昭和４０年代後半以降、円高などによる国際競争力の低下などによって、工場の縮小・閉鎖が相次ぎました。

明治４年、廃藩置県によりこの地域は岸和田県となり、同年１１月堺県に編入され、さらに明治１４年には大阪府に属することとなりました。明治２２年の町村制施行と同時に実施された大規模な町村合併により、この地は７村で構成されていました。昭和に入ってからは合併や町制施行などで２町４村となり、

昭和３１年には町村合併促進法に基づき６カ町村が合併し泉南町となり、昭和４５年に市制を施行し、泉南市となり現在に至ります。

平成 6 年には大阪湾の本市沖合に関西国際空港が開港しました。関西国際空港は「地域と共存共栄する空港」を理念として建設され、地元泉州をはじめ関西全域で人、モノ、情報の交流を活発化させており、世界都市・関西の形成に向け大きな役割を担っています。

そして平成 18 年 8 月 2 日には第 2 滑走路が供用を開始し、関西国際空港は複数滑走路を有する、24 時間運用可能な国際拠点空港及びアジアのゲートウェイとしての第一歩を踏み出しました。今後の発展が全世界から期待されるとともに、泉南市もりんくう都市としてさらなる飛躍を期待されています。